

令和4年度大矢野原演習場で使用する電気

業務隊長	管理科長	営繕班長	企画係長	エネルギー専門官	電気係長	電気係	作成者

陸上自衛隊北熊本駐屯地業務隊管理科

仕 様 書

1 件 名 令和4年度大矢野原演習場で使用する電気

2 概 要

(1) 需要場所 陸上自衛隊 北熊本駐屯地 大矢野原演習場
熊本県上益城郡山都町水之田尾

(2) 業種及び用途 官公署（国家事務）

3 仕 様

(1) 電気方式、契約種別及び契約電力、予定使用電力量等

仕様のうち電気方式、契約種別及び契約電力、予定使用電力量等は別紙第1参照。

契約種別及び契約電力（または電流または容量、以下同じ）とは、供給する電気事業者の供給約款等により電気方式や使用形態ごとに決定（または算出）される契約の名称（または値）をいう。別紙第1においては参考までに九州電力株式会社（以下丙という）の特定小売供給約款における契約種別及び契約電力を表示している。

(2) 供給電気の種類等

「RE100 TECHNICAL CRITERIA」の要件を満たす再生可能エネルギー電気を供給することとし、その電気は再エネ比率100%とすること。

参照：別紙第2「RE100 TECHNICAL CRITERIA」の要件 <https://www.there100.org/technical-guidance>

また、供給した電力量に占める再生可能エネルギー電気の比率について確認できる資料を、別紙第3を参照のうえ半期ごとに書面で提出すること。

(3) 契約（使用）期間

自 令和 4年 4月 1日 00:00時
至 令和 5年 3月31日 24:00時

(4) 使用電力量の計量

使用した電力量の計量は、九州電力送配電株式会社（以下乙という）が設置した計量装置の読みによるものとし、乙が設定する検針区域に応じて定めた検針の基準となる日に、毎月検針を行うものとする。

ア 計量装置 普通電力量計
イ 検針方法 遠隔自動検針

(5) 需給地点

需要場所の建物屋側等において、陸上自衛隊北熊本駐屯地（以下甲という）が設置した電源引込口の電源側接続点。

(6) 計量地点

需給地点の負荷側であって、甲が設置した引込開閉器の電源側。

- (7) 電気工作物の財産分界点
需給地点に同じ。ただし、計量地点における計量装置は乙が所有する装置とする。
- (8) 保安上の責任分界点
需給地点に同じ。

4 その他

- (1) 二酸化炭素排出係数、未利用エネルギーの活用、再生可能エネルギーの導入、グリーン電力証書の譲渡に関し別紙第4に掲げる条件を満たすこと。
- (2) 毎月検針終了後1週間以内に、「検針結果と前月の使用電力量等の内訳」及び「電気料金の計算書」を甲に送付すること。
- (3) 力率は、丙の特定小売供給約款により算出される値。
- (4) フリッカ発生機器等、電気の質に影響を与えるような負荷設備は有していない。
- (5) 発電設備は有していない。
- (6) 各月の電気料金の算定において、電力量料金の燃料費調整及び電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づく賦課金については、丙が定める特定小売供給約款によるものとする。
- (7) 入札価格の算定にあたっては、燃料費調整、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づく賦課金は考慮しないこと。
- (8) 入札価格その他を計算する場合の単位、及びその端数処理は次のとおりとする。
 - ア 契約電力の単位は1キロワット（または1アンペアまたは1キロボルトアンペア）とし、その端数は小数点以下第1位で四捨五入する。
 - イ 使用電力量の単位は1キロワット時とし、その端数は小数点以下第1位で四捨五入する。
 - ウ 力率の単位は、1パーセントとし、その端数は小数点以下第1位で四捨五入する。
 - エ 料金その他の計算における合計金額の単位は、1円とし、その端数は、小数点以下を切り捨てる。
- (9) 本仕様書に定めのない事項については、協議のうえ決定するものとする。

大矢野原演習場 電気方式・契約電力・予定使用電力量等一覧表

使用場所名	廠舎	受電方式	1回線受電	標準周波数	60Hz
契約種別	低圧電力		予定契約電力	11kW	
供給電気方式	3相3線式	供給電圧	200V	計量電圧	200V
力率	85%	遠隔自動検針の有無	無	蓄熱式負荷設備の有無	無

年 月	予定使用電力量(kWh)
令和4年4月分	3,600
令和4年5月分	5,700
令和4年6月分	6,300
令和4年7月分	6,500
令和4年8月分	5,800
令和4年9月分	6,900
令和4年10月分	5,700
令和4年11月分	5,000
令和4年12月分	5,000
令和5年1月分	6,600
令和5年2月分	5,400
令和5年3月分	7,300
合 計	69,800

使用場所名	廠舎	受電方式	1回線受電	標準周波数	60Hz
契約種別	従量電灯C		予定契約電力	45kVA	
供給電気方式	単相3線式	供給電圧	200/100V	計量電圧	200/100V
力率	——	遠隔自動検針の有無	有	蓄熱式負荷設備の有無	無

年 月	予定使用電力量(kWh)
令和4年4月分	4,500
令和4年5月分	5,000
令和4年6月分	5,500
令和4年7月分	6,000
令和4年8月分	2,600
令和4年9月分	6,700
令和4年10月分	4,500
令和4年11月分	4,700
令和4年12月分	14,200
令和5年1月分	21,900
令和5年2月分	17,500
令和5年3月分	15,800
合 計	108,900

使用場所名	野外トイレ	受電方式	1回線受電	標準周波数	60Hz
契約種別	従量電灯B		予定契約電力	30A	
供給電気方式	単相3線式	供給電圧	200/100V	計量電圧	200/100V
力率	——	遠隔自動検針の有無	有	蓄熱式負荷設備の有無	無

年 月	予定使用電力量(kWh)
令和4年4月分	120
令和4年5月分	130
令和4年6月分	140
令和4年7月分	210
令和4年8月分	180
令和4年9月分	200
令和4年10月分	170
令和4年11月分	50
令和4年12月分	40
令和5年1月分	70
令和5年2月分	130
令和5年3月分	230
合 計	1,670

使用場所名	浄化槽	受電方式	1回線受電	標準周波数	60Hz
契約種別	低圧電力		予定契約電力	5kW	
供給電気方式	3相3線式	供給電圧	200V	計量電圧	200V
力率	90%	遠隔自動検針の有無	有	蓄熱式負荷設備の有無	無

年 月	予定使用電力量(kWh)
令和4年4月分	1,200
令和4年5月分	1,400
令和4年6月分	1,400
令和4年7月分	1,600
令和4年8月分	1,400
令和4年9月分	1,600
令和4年10月分	1,400
令和4年11月分	1,400
令和4年12月分	1,400
令和5年1月分	1,700
令和5年2月分	1,400
令和5年3月分	1,800
合 計	17,700

使用場所名	射撃場	受電方式	1回線受電	標準周波数	60Hz
契約種別	低圧電力		予定契約電力	8kW	
供給電気方式	3相3線式	供給電圧	200V	計量電圧	200V
力率	90%	遠隔自動検針の有無	無	蓄熱式負荷設備の有無	無

年 月	予定使用電力量(kWh)
令和4年4月分	50
令和4年5月分	120
令和4年6月分	100
令和4年7月分	120
令和4年8月分	140
令和4年9月分	140
令和4年10月分	70
令和4年11月分	100
令和4年12月分	100
令和5年1月分	300
令和5年2月分	600
令和5年3月分	600
合 計	2,440

使用場所名	射撃場	受電方式	1回線受電	標準周波数	60Hz
契約種別	従量電灯C		予定契約電力	13kVA	
供給電気方式	単相3線式	供給電圧	200/100V	計量電圧	200/100V
力率	——	遠隔自動検針の有無	無	蓄熱式負荷設備の有無	無

年 月	予定使用電力量(kWh)
令和4年4月分	140
令和4年5月分	300
令和4年6月分	370
令和4年7月分	430
令和4年8月分	500
令和4年9月分	460
令和4年10月分	120
令和4年11月分	200
令和4年12月分	100
令和5年1月分	200
令和5年2月分	700
令和5年3月分	700
合 計	4,220

「RE100 TECHNICAL CRITERIA」の概要

「RE100 TECHNICAL CRITERIA^(※)」において、再生可能エネルギー源と認められているのは、以下のものである。

1. バイオマス（バイオガスを含む）
2. 地熱
3. 太陽光
4. 水力
5. 風力

また、RE100 における再生可能エネルギー電気の調達方法は、下表のとおり定められている。記載のとおり、電気事業者から購入するほか、自家発電や電力証書の購入等も調達方法として認められている。なお、調達する再生可能エネルギー電気（電力証書を含む。）に付随する環境価値については、重複利用がなく、調達者単独の利用であると主張できることが必要となる。そのため、調達者は、電源情報とともに調達者へ環境価値を移転したこと及び第三者へ移転しないことの証明を電気事業者から得る必要がある。

表 RE100 における再生可能エネルギー電気の調達方法

自家発電
1. 企業が保有する発電設備による発電
購入電力
2. 企業の敷地内に供給者が設置した設備から購入
3. 企業の敷地外に設置した発電設備から専用線を経由して直接購入
4. 企業の敷地外にある系統に接続した発電設備から直接購入
5. 供給者（電気事業者）との契約（グリーン電力メニュー）
6. 環境価値を切り離した電力証書の購入

資料：RE100 TECHNICAL CRITERIA を基に作成

※<https://www.there100.org/sites/re100/files/2021-08/RE100%20Technical%20Criteria%20Aug%202021.pdf>

提出様式例

2022年〇月〇日

特 定 電 源 割 当 証 明 書

●●●●
〇〇 〇〇 様

〇〇県〇〇市〇〇
株式会社〇〇〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇 印

2022年〇半期に以下のとおり●●●●に電力を供給したことをここに証する。
また、供給電源情報に記載の割当電力量に係る環境価値について、●●●●に移転したこと、いかなる第三者へも移転されていないことをここに証する。

1 お客様情報
 お客様番号 〇〇〇〇
 需要施設名 〇〇〇〇
 需要施設住所 〇〇県〇〇市〇〇
 契約電力 〇〇〇〇kw

2 供給期間
 2022年〇月〇日～〇月〇日

3 再生可能エネルギー由来電力量の情報（各月の内訳は別紙のとおり）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累積
再生エネルギー由来電力量 (kwh) 【A】													
供給電力量 (kwh) 【B】													
再生エネルギー比率 (%) 【A/B】													

【別紙】再生可能エネルギー由来電力量の内訳（〇月）

1 再生エネルギー

供給元発電所名	住所	再生可能エネルギー源種類	割当電力量 (kwh)
〇〇発電所	〇〇県〇〇市〇〇	水力	〇〇
		合計 (kwh)	

2 証書による環境価値移転量（環境価値を持つ証書を用いた電力メニューを提供する場合のみ記載）

供給元発電所名	住所	再生可能エネルギー源種類	環境価値移転量	発電期間	認証番号
〇〇発電所	〇〇県〇〇市〇〇	太陽光	〇〇	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日	〇〇
		合計 (kwh)			

総計 (kwh)

二酸化炭素排出係数、環境への負荷の低減に関する取組の状況に関する条件

1 条 件

- (1) 電源構成及び二酸化炭素排出係数の情報を開示（※1）しており、かつ、①令和2年度1kWh当たりの二酸化炭素排出係数、②令和2年度の未利用エネルギー活用状況、③令和2年度の再生可能エネルギー導入状況、④グリーン電力証書の調達者への譲渡予定量（予定使用電力量の割合）、⑤需要家への省エネルギー・節電に関する情報提供の取組の5項目に係る数値を以下の表に当てはめた場合の評点の合計が70点以上であること。

要素	区分	得点
①令和2年度1kWh当たりの二酸化炭素排出係数（調整後排出係数） （単位：kg-CO2/kWh）	0.000以上 0.400未満	70
	0.400以上 0.425未満	65
	0.425以上 0.450未満	60
	0.450以上 0.475未満	55
	0.475以上 0.500未満	50
	0.500以上 0.525未満	45
	0.525以上 0.550未満	40
	0.550以上 0.575未満	35
	0.575以上 0.600未満	30
	0.600以上 0.625未満	25
	0.625以上	20
②令和2年度の未利用エネルギー活用状況	0.675%以上	10
	0%超 0.675%未満	5
	活用していない	0
③令和2年度の再生可能エネルギー導入状況	5.00%以上	20
	3.00%以上 5.00%未満	15
	1.50%以上 3.00%未満	10
	0%超 1.50%未満	5
	活用していない	0
④グリーン電力証書（※2）の調達者への譲渡予定量 （予定使用電力量の割合）	5.0%	10
	2.5%	5
	活用していない	0
⑤需要家への省エネルギー・節電に関する情報提供の取組	取り組んでいる	5
	取り組んでいない	0

（注）各用語の定義は、付紙第1「各用語の定義」を参照。

- ※1 経済産業省「電力の小売営業に関する指針」（平成30年12月改定）に示された電源構成等の算定や開示に関する望ましい方法に準じて実施していること。ただし、新たに電力の供給に参入した小売電気事業者であって、電源構成を開示していない者は、参入日から1年間に限って開示予定時期（参入日から1年以内に限る）を明示することにより、適切に開示したものとみなす。
- ※2 一般財団法人日本エネルギー経済研究所グリーンエネルギー認証センターの認証に係るグリーン電力証書に限る。
 - (2) グリーン電力証書の譲渡予定量を示すことにより入札資格を得た者が落札した場合、落札後、契約までの間に、グリーン電力証書を国に譲渡することとする。譲渡とは、グリーン電力証書の発行を行った者が、現在のグリーン電力証書の保有者を管理するための帳簿等の名義を第392会計隊長に変更することをいう。書類等がある場合、その書類等も譲渡すること。

2 添付書類等

入札に当たっては、競争参加資格確認関係書類として、1（1）の条件を満たすことを示す書類及びその根拠を示す書類を添付すること。

付紙第2「適合証明書」

3 契約期間内における努力等

- (1) 契約事業者は、契約期間の1年間についても、1（1）の表による評点の合計が70点以上となるように電力を供給するよう努めるものとする。
- (2) 1（1）の基準を満たして電力供給を行っているかの確認のため、必要に応じ関係書類の提出及び説明を求めることがある。また、契約事業者は、契約期間満了後可能な限り速やかに、1（1）の基準を満たして電力供給を行ったか否か、報告するものとする。

各用語の定義

用 語	定 義
①令和 2 年度 1 kWh 当たりの二酸化炭素排出係数	<p>「令和 2 年度 1 kWh 当たりの二酸化炭素排出係数」は、次の数値とする。</p> <p>地球温暖化対策推法に基づき、環境大臣及び経済産業大臣により公表されている令和 2 年度の調整後二酸化炭素排出係数</p>
②令和 2 年度の未利用エネルギー活用状況	<p>未利用エネルギーの有効活用の観点から、令和 2 年度における未利用エネルギーの活用比率を使用する。算出方法は、以下のとおり。</p> <p>令和 2 年度の未利用エネルギーによる発電電力量(送電端) (kWh) を令和 2 年度の供給電力量 (需要端) (KWh) で除した数値 (算定方式)</p> $\text{令和 2 年度の未利用エネルギーの活用状況 (\%)} = \frac{\text{令和 2 年度の未利用エネルギーによる発電電力量(送電端)}}{\text{令和 2 年度の供給電力量 (需要端)}} \times 100$ <p>1 未利用エネルギーによる発電を行う際に、他の化石燃料等の未利用エネルギーに該当しないものと混燃する場合は、以下の方法により未利用エネルギーによる発電量を算出する。</p> <p>① 未利用エネルギー及び未利用エネルギーに該当しない化石燃料等の双方の実測による燃焼時の熱量が判明する場合は、発電電力量を熱量により按分する。</p> <p>② 未利用エネルギーの実測による燃焼時の熱量が判明しない場合は、未利用エネルギーに該当しない化石燃料等の燃焼時の熱量と当該発電機の効率から未利用エネルギーに該当しない化石燃料等の燃焼に伴う発電量を算出し、当該数値を全体の発電量から除いた分を未利用エネルギーによる発電分とする。</p> <p>2 未利用エネルギーとは、発電に利用した次に掲げるエネルギー（他社電力購入に係る活用分を含む。ただし、インバランス供給を受けた電力に含まれる未利用エネルギー活用分については含まない。）をいう。</p> <p>① 工場等の廃熱又は排圧</p> <p>② 廃棄物の燃焼に伴い発生する熱（「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法（平成 23 年法律第 108 号）」（以下「FIT 法」という。）第二条第 4 項において定める再生可能エネルギーに該当するものを除く。）</p> <p>③高炉ガス又は副生ガス</p>

②令和2年度の未利用エネルギー活用状況	<p>3 令和2年度の未利用エネルギーによる発電電力量には他小売電気事業者への販売分は含まない。</p> <p>4 令和2年度の供給電力量には他小売電気事業者への販売分は含まない。</p>
③令和2年度の再生エネルギーの導入状況	<p>再生可能エネルギーの導入状況は以下の算定式によるもの (算定方式) $\frac{\text{①}+\text{②}+\text{③}+\text{④}+\text{⑤}}{\text{⑥}} \times 100$</p> <p>令和2年度の再生可能エネルギーの導入状況(%) = $\frac{\text{①}+\text{②}+\text{③}+\text{④}+\text{⑤}}{\text{⑥}} \times 100$</p> <p>① 令和2年度自社施設で発生した再生可能エネルギー電気の利用量(送電端(KWh))</p> <p>② 令和2年度他社より購入した再生可能エネルギー電気の利用量(送電端(kwh)) (ただし、再生可能エネルギーの固定価格買取制度による買取電力は除く。)</p> <p>③ グリーンエネルギーCO₂削減相当量認証制度により所内消費分の電力に由来するものとして認証されたグリーンエネルギーCO₂削減相当量に相当するグリーンエネルギーの電力量(kwh) (ただし、令和2年度の小売電気事業者の調整後排出係数の算定に用いたものに限る。)</p> <p>④ J-クレジット制度により認証された再生可能エネルギー電気由来クレジットの電力相当量(kwh) (ただし、令和2年度の小売電気事業者の調整後排出係数の算定に用いたものに限る。)</p> <p>⑤ 非化石価値取引市場から調達した固定価格買取制度による再生可能エネルギー電気に係る非化石証書の量(kwh) (ただし、令和2年度の小売電気事業者の調整後排出係数の算定に用いたものに限る。)</p> <p>⑥令和2年度の供給電力量(需要端(kwh))</p> <p>1 再生可能エネルギーとは、FIT法第二条第4項に定められる再生可能エネルギー源を用いる発電設備による電気を対象とし、太陽光、風力、水力(30,000kW未満、ただし、揚水発電は含まない)、地熱、バイオマスを用いて発電された電気とする。(ただし、インバランス供給を受けた電力に含まれる再生可能エネルギー電気については含まない。)</p> <p>2 令和2年度の再生可能エネルギー電気の利用量(①+②+③+④+⑤)には他小売電気事業者への販売分は含まない。</p> <p>3 令和2年度の供給電力量(⑥)には他小売電気事業者への販売分は含まない。</p>

<p>⑤需要家への省エネルギー・節電に関する情報提供の取組</p>	<p>需要家に対する省エネルギー・節電に関する情報提供の取組について、需要家の省エネルギーの促進の観点から評価する。</p> <p>具体的な評価内容として、</p> <ul style="list-style-type: none">・電力デマンド監視による使用電力量の表示（見える化）・需給逼迫時等における需要家の電力使用抑制に資するサービス（リアルタイムの情報提供、協力需要家への優遇措置の導入） <p>例えば、需要家の使用電力量の推移等をホームページ上で閲覧可能にすること、需要家が設定した最大使用電力を超過した場合に通知を行うこと、電力逼迫時等に電気事業者側からの要請に応じ、電力の使用抑制に協力した需要家に対して電力料金の優遇を行う等があげられる。なお、本項目は個別の需要者に対する省エネルギー・節電に関する効果的な情報提供の働きかけを評価するものであり、不特定多数を対象としたホームページ等における情報提供や、毎月の検針結果等、通常の使用電力量の通知等は評価対象とはならない。</p>
-----------------------------------	---

適合証明書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

分任契約担当官
陸上自衛隊北熊本駐屯地
第392会計隊長 〇〇〇〇 殿

住 所
商号又は名称
代表者氏名

下記の内容に相違ないことを証明します。

1 電源構成及び二酸化炭素排出係数の情報の開示方法

開 示 方 法	番 号
①ホームページ ②パンフレット ③チラシ ④その他 ()	

2 令和2年度の状況

	項 目	自社の基準値	点 数
①	令和2年度 1kWh 当たりの二酸化炭素排出係数 (単位: kg-CO2/kWh)		
②	令和2年度の未利用エネルギー活用状況		
③	令和2年度の再生可能エネルギー導入状況		

	項 目	譲渡予定量	点 数
④	グリーン電力証書の調達者への譲渡予定量 (予定使用電力量の割合)		

	項 目	取組の有無	点 数
⑤	需要家への省エネルギー・節電に関する情報提供の取組		

① ~ ⑤ の 合 計 点 数			
-----------------	--	--	--

- 注1) 「自社の基準値」、「譲渡予定量」及び「点数」には、別紙第4により算出した値を記載
 注2) 2の合計点数が70点以上となった者を本案件の入札適合者とする。
 注3) 1及び2の条件を満たすことを示す書類を添付すること。